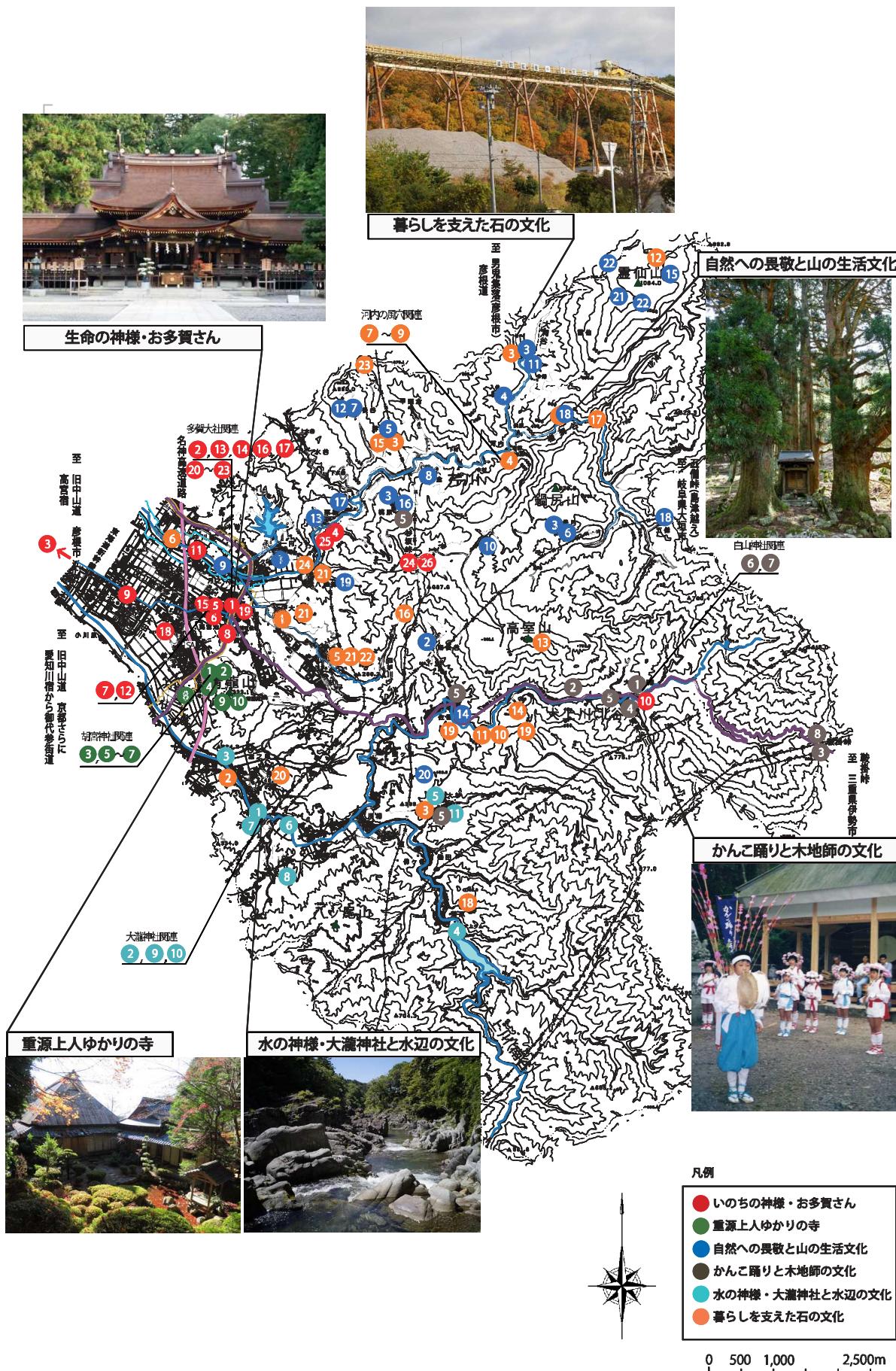


第4章 関連文化財群の抽出

名前	キーワード	テーマ概要
(1) いのちの神様・お多賀さん -多賀信仰-	社寺 信仰	<p>多賀町において、歴史文化の中心に多賀大社が存在する。『古事記』に記述があるように1300年以上の歴史があり、室町時代に多賀大社の信仰が全国に広まり、「お伊勢参らばお多賀へ参れ、お伊勢、お多賀の子でござる」とうたわれた。桃山時代には「多賀大社參詣曼荼羅図」が描かれ、多賀信仰は更に広まり、薙命長寿の神様として、現在年間約160万人の参拝者がある。</p> <p>こうした多賀の大神の存在は、祭礼や古文書・歴史資料に残り、参詣道の門前町、御手洗川等、周辺一体の文化圏を形成するに至っている。さらに、ご祭神の伊邪那岐大神の伝説が伝わる御神木や多賀杓子の発祥とされる飯盛木などの大木もあり、歴史文化、自然環境共、全域に関連文化財群が分布している。</p>
(2) 重源上人ゆかりの寺 -敏満寺と胡宮神社-	社寺 信仰	<p>敏満寺は鎌倉時代には多賀町の基幹をなす存在であったと考えられる。現在も土塁や礎石などの遺構がその歴史を伝えている。浅井や織田の焼き討ちで焼失したが、湖東における中世の中心地であった。青龍山西側山麓に広がる敏満寺石仏谷墓跡は日本最大規模級の中世墳墓群である。</p> <p>また、当時の高僧である重源上人が奉納した銅製五輪塔や東大寺の古代莊園・水沼莊が絵図に描かれているなど、歴史深い地域である。</p> <p>また、敏満寺の主神体であった胡宮神社は古くは青龍山を神体山とあがめ、山頂近くには、大きな岩が多数重なった「磐座」と呼ばれる靈場が今に残っている。胡宮神社の磐座には「竜宮」の小祠があり、水神信仰の地としても知られている。</p>
(3) 自然への畏敬と山の生活文化 -五僧越えの古道を中心に-	信仰 川 古道 山 生業	<p>山間部には、農村文化を知ることができる灰小屋や近世民家があり、特徴的な石積みと茅葺民家など数多くの集落景観が残っている。また、巨木など自然を対象にした信仰や各集落で行われる氏神様の祭礼が今も継承されている。</p> <p>そして、伊勢につづく「伊勢道」、「五僧越え(島津越え)」と呼ばれる五僧峠を越える古道などが残り、自然と歴史が共に文化財群を形成している。</p> <p>多賀そばや古くからの名産であるごぼうは石灰岩風化土による風味豊かなもので、近年復活をとげ、多賀の特産物となっている。他にも多賀大社の祭礼に合わせてつくられる、ほんがら餅など地元の歴史文化と共に食文化が地域の人々によって守られている。</p>
(4) かんこ踊りと木地師の文化 -大君ヶ畑越えの古道を中心に-	信仰 川 古道 山 生業	<p>鞍掛峠から多賀大社への古道には、参宮橋や両宮橋がかかっており、両宮とは「伊勢神宮」と「多賀大社」のことで、2つを結ぶ橋を指す。この道は三重からの参拝者が多く通った歴史を伝える古道として知られている。</p> <p>多賀町は川と水に恵まれた土地だが、干ばつが続くと、農業用水の不足に見舞われることもあり、雨乞いのかんこ踊り文化が生まれた。太鼓に合わせて歌をうたい、龍神や龍宮に雨乞いをした。伝承で伝わる歌は地域によって異なり、大君ヶ畑地区で5種類ほどある。</p> <p>木地師にまつわる伝説も残っている地域で、惟喬親王をご祭神とする白山神社末社お池堂があり、町内でも特色ある文化財群を形成している。</p>
(5) 水の神様・大瀧神社と 水辺の文化 -水とともにある暮らし-	社寺 信仰 川	<p>大瀧神社は、創立は明らかでないが、古来多賀大社の末社、あるいは奥宮として考えられている。雨と水脈を司り農作物の豊作を授ける神様である。旧大瀧村の総鎮守として、また犬上川の水流域を護る神として崇拜されてきた。「犬上郡」名の起源とも伝えられている大胴松の伝説もあり、境内社の犬上神社に祀られている。その目の前にある大蛇ヶ淵は奇岩怪岩の景勝地であり、犬上川の清流を眺望できる水辺景観である。</p> <p>また、上流の狭い谷沿いにある大杉地区では、石積みによって住居のための平地を造りだし、さらに、野菜を洗ったり、川遊びの場等の様々な用途のための河原へ降りる石段がみられる。これらは全体として山間部の谷筋における特色ある集落景観を示し、水とともにある暮らしの文化財群を構成している。</p>
(6) むらしを支えた石の文化 -石灰岩・石材・化石-	石 産業	<p>多賀町の石灰岩は河内の風穴など西日本でも最大級のカルスト地形を造りだし独特な景観を形成している。石灰岩から製造される石灰の歴史は約800年前に遡る。江戸時代には「本山石灰」と呼ばれる極上の漆喰を京都の公家御用達品として出荷していた。昭和以降、石灰岩は大企業により採掘され、セメント産業の発展とともに町の近代化を支えた。原石山からのベルトコンベア隧道や空中索道跡は高度成長期の産業遺産である。</p> <p>大岡や四手地区に分布する湖東流紋岩は古くは大岡高塚古墳の石室、江戸時代には多賀大社一の鳥居(彦根市高宮町)や礎石、近代では多賀大社前駅のプラットホームの石組等に用いられてきた。</p> <p>石灰岩地帯から発見される化石や古生物群から産出したアケボノゾウの全身骨格化石等は、豊かな自然と共に、多賀を象徴している。</p>

[表 4-1] 関連文化財群のテーマ概要



[図4-2] 関連文化財群分布図
(多賀町「多賀町全図」平成20年(2008)3月に加筆)

第4章 関連文化財群の抽出

	関連文化財群	中心とする地域	これまでに行われている文化財保存活用活動、開発する計画・条例など
(1)	いのちの神様・お多賀さん -多賀信仰-	多賀地区	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝多賀神社奥書院庭園保存整備事業 ・多賀大社祭礼調査 ・絵馬通り整備事業(町道の修景) ・観光交流センター事業(絵馬通り) ・国道307号沿道景観形成地区(滋賀県景観計画) ・「多賀の門前町を育て、品格があり美しく住みよい町をつくる協定」(多賀町近隣景観形成協定地区) ・多賀三社まいり((一社)多賀観光協会)
(2)	重源上人ゆかりの寺 -敏満寺と胡宮神社-	敏満寺地区	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡敏満寺石仏谷墓跡保存整備事業 ・名勝胡宮神社社務所庭園保存整備事業 ・「(仮称)多賀スマートインターチェンジ建設と文化財保護について」建設可能性調査 ・多賀三社まいり((一社)多賀観光協会) ・胡宮神社古文書調査 ・近江水の宝(滋賀県)-大門池と敏満寺
(3)	自然への畏敬と山の生活文化 -五僧越えの古道を中心に-	一円地区 靈仙地区 保月地区 桃原地区	<ul style="list-style-type: none"> ・芦川の河川景観形成地区(滋賀県景観計画) ・登録有形文化財「旧一圓家住宅」の利活用 ・南後谷「渓流にひびくガッタリの郷づくり」協定(多賀町近隣景観形成協定地区) ・関ヶ原戦跡踏破隊(島津越えのルートを踏破) ・多賀町民俗調査(聞き取り調査)、古文書調査 ・古道(伊勢道)復活プロジェクト ・地域ブランド認定制度創設事業(農産品など)
(4)	かんこ踊りと木地師の文化 -大君ヶ畠越えの古道を中心に-	大君ヶ畠地区	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査(大君ヶ畠地区) ・大君ヶ畠かんこ踊り保存会
(5)	水の神様・大瀧神社と水辺の文化 -水とともにあら暮らし-	大瀧地区 大杉地区	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀三社まいり((一社)多賀観光協会) ・多賀デザイン・カレッジ 大瀧キャンパス ・聞き取り調査(大杉地区)(藤瀬地区) ・近江水の宝(滋賀県)-大瀧神社 ・「緑とコミュニティあふれる川辺の町づくり」協定(多賀町近隣景観形成協定地区)
(6)	暮らしづえた石の文化 -石灰岩・石材・化石-	河内地区 佐目地区 富之尾地区 八重練地区	<ul style="list-style-type: none"> ・佐目風穴コウモリ類および石灰岩性植物生息・生育地保護区(滋賀県条例) ・河内の風穴観察会、地学ツアーなどのイベント((一社)多賀観光協会) ・聞き取り調査(大岡地区)
		多賀地区 四手地区 大岡地区 楷崎地区	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト ・親子化石発掘体験イベント(多賀町立博物館) ・自然史講座(多賀町立博物館) ・大岡高塚古墳、楷崎古墳 発掘調査報告書

[表 4-2] 関連文化財群の詳細一覧 (P83.84)

主な文化財と特色	保存活用計画の方針	保存活用計画の具体案
<ul style="list-style-type: none"> 多賀神社奥書院庭園(国指定名勝) 多賀大社奥書院、梵鐘(県指定文化財) 多賀大社本殿他(町指定文化財) かぎ櫻、かめ屋旅館本館・広間(登録有形文化財) 真如寺 木造阿弥陀如来坐像(重要文化財) 多賀大社一の鳥居(県指定文化財)は彦根市の中山道高宮宿にあるが、多賀大社まで道標等が残り、参詣道を辿ることができる。 	<p>①名勝庭園の整備・保全 ②門前町の整備・保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「名勝多賀神社奥書院庭園保存活用計画書」に基づく整備 ・観光ボランティアガイドの歴史知識セミナー、生涯学習の講座への展開 ・街歩きワークショップ(多賀ぶら) ・多賀大社前駅と多賀大社間の沿道整備、案内板の多言語化 ・まちづくり協議会の立ち上げ、調査委員の地元選出(文化財マネージャー) ・門前町の景観調査、古文書調査の継続と情報公開 ・伝統的建造物群保存地区指定への検討
<ul style="list-style-type: none"> 敏満寺石仏谷墓跡(国指定史跡) ・銅製五輪塔(重要文化財) ・胡宮神社社務所庭園(国指定名勝) ・胡宮神社本殿(県指定文化財) <p>古くは青龍山を神体山とあがめ、山頂近くには大きな岩が多数重なった、磐座と呼ばれる靈場が今に残っている。</p>	<p>①名勝庭園・史跡の整備・保全 ②史跡価値の普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「史跡敏満寺石仏谷墓跡保存管理計画書」に基づく整備 ・「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」に基づく整備 ・史跡公園の利活用計画、誘導看板整備、案内板の多言語化 ・遺跡探訪ルートやマップの作成、多賀SAからの遊歩道の周知 ・観光ボランティアガイドの歴史知識セミナー、生涯学習の講座への展開 ・街歩きワークショップ(多賀ぶら) ・発掘現場の公開や体験 ・多賀SICとの共存、湖東の庭園を周遊できるような連携計画
<ul style="list-style-type: none"> 「旧一國家住宅」(登録有形文化財) ・靈仙神社 ・井戸神社のカツラ(県指定自然記念物)(町指定天然記念物) ・靈仙詣りなどの山岳信仰や巨木・巨石など自然を対象にした信仰、各地の小祠の祭礼が継承されている地域。 	<p>①登録有形文化財の整備・保全 ②文化財価値の普及 ③防災対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀「里の駅」での継続的なイベント、活動支援 ・山歩きワークショップ(多賀ぶら) ・河川周辺の樹林の保全、背後の山並みと一体となった緑豊かな環境保全 ・河川景観の調査・記録 ・落石などの防災対策と冬季の除雪作業の課題改善 ・食文化、農文化の紹介・体験、河川と集落のつながりを体験 ・茅場の保全、技術継承 ・農村集落の民間活用(茅葺民家宿泊施設等の検討)
<ul style="list-style-type: none"> 白山神社(大君ヶ畠地区)(惟喬親王伝説)(三季の講) ・雨乞いのかんこ踊りが行われていたところで、太鼓に合わせて踊り、竜神や竜宮に雨乞いをした。本地師にまつわる伝説も残っている地域。 	<p>①聞き取り調査・民俗調査の継続的な実施 ②伝統文化の継承 ③防災対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズム、空き家の利活用検討 ・山歩きガイドの育成、古道ツアー ・古道の整備、誘導看板整備 ・大君ヶ畠かんこ踊り保存会への活動支援 ・祭礼、伝行事継承への活動支援、記録・調査 ・広報や観光施策との連携強化
<ul style="list-style-type: none"> ・大瀧神社(県指定文化財)は、犬上川の水流を護る神として崇拝されてきた。 ・大杉地区では、石積みによって住居のための平地を造りだし、さらに川に降りる石段があり、特色ある水辺景観を構成している。 	<p>①文化財の整備・保全 ②文化財価値の普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアガイドの歴史知識セミナー、生涯学習の講座への展開 ・街歩きワークショップ(多賀ぶら) ・ルートや誘導看板整備 ・河川景観の広報や河川周辺の樹林の保全、背後の山並みと一体となった緑豊かな環境保全 ・河川景観の調査・記録 ・河川と集落環境のつながりを体験
<ul style="list-style-type: none"> ・河内の風穴(県指定天然記念物)・佐目の風穴 ・ベルトコンベアのトンネル跡(佐目地区) ・大上鉱山跡(富之尾地区) ・石切場跡(大岡・八重練・四手地区) ・石灰岩から製造される「石灰」は800年を越える歴史があり、昭和時代からは大企業が採掘を始め、当時の歴史を物語る鉱山跡のトロッコレール等がある。 	<p>①近代化遺産の整備・保全 ②調査及び文化財価値の評価・普及 ③天然記念物の整備・保全 ④治山の防災対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱山跡や石切場跡の整備・保全 ・山歩きガイドの育成、山歩きワークショップ(多賀ぶら) ・地域住民へ地域学セミナー、生涯学習の講座への展開 ・利活用の検討 ・落石などの防災対策と冬季の除雪作業の課題改善 ・ルートや誘導看板整備 ・石積み集落景観の保全と利活用、紹介
<ul style="list-style-type: none"> ・アケボノゾウ化石 全身骨格(町指定天然記念物) ・ナウマンゾウ化石産出地(中川原地区) ・大岡高塚古墳(町指定史跡) ・檣崎古墳(町指定史跡) ・アケボノゾウ全身骨格を展示する町立博物館があり、地域の歴史・文化・自然を学ぶ場となっている。また、大岡高塚古墳や檣崎古墳の発掘調査が行われ、史跡整備されている。 	<p>①調査・研究の継続 ②価値の普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民へ地域学セミナー、生涯学習の講座への展開 ・化石の普及・利活用の検討 ・発掘イベント ・指定、未指定文化財の継続的調査の実施と保存活用

(1) 「いのちの神様・お多賀さん - 多賀信仰 -」

●多賀大社と多賀信仰

『古事記』に記述があるように 1300 年以上の歴史があり、室町時代に多賀大社の信仰が全国に広まり、「お伊勢参らばお多賀へ参れ、お伊勢、お多賀の子でござる」とうたわれた。安土桃山時代には『多賀大社参詣曼荼羅図』が描かれ、多賀信仰は更に広まり、薙命長寿の神様として、現在年間約 160 万人の参拝者がある。

多賀大社奥書院は安永 3 年（1774）頃に建てられたと伝わり、奥書院から見える庭は池泉鑑賞式庭園で国の名勝に指定されている。古い時代から公家たちからの信仰も篤く、社伝による豊臣秀吉のいわれもある。明治初年の神仏分離で、多賀大社の本地堂の本尊であった木造阿弥陀如来坐像（重要文化財）は、門前町の一角にある真如寺に移った。神仏習合時代の名残である鐘楼の梵鐘は境内に残り、この時代のものでは、5 本の指に入る大きさといわれている。

付近では調宮神社（栗栖地区）が多賀大社の御旅所となっており、古例大祭では「富の木渡し」という神事に使用される飛の木（カツラ）がある。杉坂峠（栗栖地区）の御神木（スギ）も伊邪那岐大神の伝説が伝わる県内最大のスギの巨木である。ここで、万灯祭の御神火祭が行われる。他にも多賀杓子の発祥とされる飯盛木（ケヤキ 2 本）（尼子地区）などがあり、広域に関連する文化財が分布しており、多賀信仰は地域の自然環境とも深い関わりがある。

●門前町と周辺環境

多賀大明神の存在は、祭礼や古文書等にもあらわれ、文化圏を形成するに至っている。多賀大社一の鳥居は中山道の高宮宿に位置し、「多賀道（高宮道）」の入り口となる。参詣道となる門前町は前述の参詣曼荼羅図にも描かれ、歴史ある町並みである。宿泊参詣者が多かった時代の名残をとどめる江戸時代創業の料理旅館が向かい合って並んでいる。その一つのかめや旅館は、社寺建築設計専門の設計士と宮大工によって建てられ、入母屋造のおおきな破風を持つ町屋風の構えである。かぎ楼は明治 10 年（1877）頃の建築で 3 棟からなる複合建築である。近代初期の 3 階建の料亭旅館である。参詣道裏においても多賀大社前の車戸川（御手洗川）が流れ、外界と境内を区切る流路は古絵図とほぼ同様とみられ、古くから変わらない周辺環境を形成している。



[写真 4-3] 多賀大社の一の鳥居と多賀道⑨
(彦根市高宮町)



[写真 4-4] 多賀大社前の車戸川⑩
(彦根市高宮町)



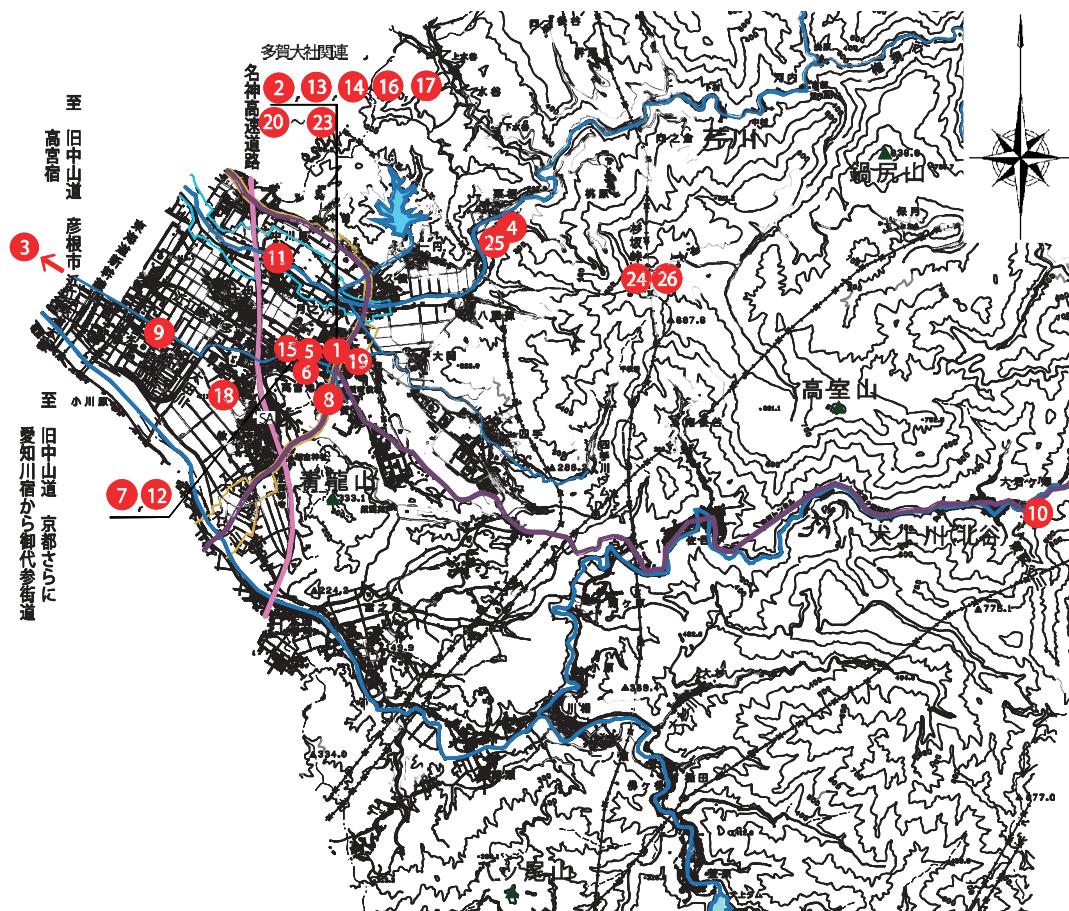
[写真 4-5] 門前町の町並み⑦
※写真タイトルの番号は次頁の表の番号を示す



[図 4-3] 門前町における構成要素の模式図（国土技術政策総合研究所資料『歴史まちづくりの手引き（案）』2013 年より）

[表 4-3] 関連文化財群の構成要素

		種別	文化財指定・条例選定等
1	多賀大社奥書院	建造物	県指定
2	多賀大社本殿他 11棟	建造物	町指定
3	多賀大社鳥居(一の鳥居)(彦根市高宮町)	建造物	県指定
4	調宮神社(多賀大社の御旅所)	建造物	-
5	かぎ楼	建造物	国指定(登録有形文化財)
6	かめや旅館	建造物	国指定(登録有形文化財)
7	門前町の町並み	景観	近隣景観形成協定地区
8	国道307号線沿道景観	景観	沿道景観形成地区
9	多賀道(高宮宿から多賀大社への参詣道)	街道	-
10	両宮橋(大君ヶ畑地区)	その他 土木構造物	-
11	銭取橋(中川原地区)	その他 土木構造物	-
12	道標(多賀道)	その他 土木構造物	-
13	紙本著色多賀大社参詣曼荼羅図(桃山時代)	絵画	町指定
14	多賀大社所蔵の能面・狂言面	彫刻	町指定
15	真如寺の木造阿弥陀如来坐像(もとは多賀大社のもの)	彫刻	国指定
16	梵鐘(多賀大社)	工芸品	県指定
17	多賀神社奥書院庭園	名勝	国指定
18	飯盛木(ケヤキ)	天然記念物	町指定/県条例指定 自然記念物
19	車戸川(御手洗川)	自然環境	-
20	近江猿楽	民俗芸能	-
21	古例大祭(多賀大社)	祭礼(信仰)	-
22	万灯祭(多賀大社)	祭礼(信仰)	-
23	秋の古例祭(多賀大社)	祭礼(信仰)	-
24	杉坂峠のスギ(多賀大社の御神木)	祭礼(信仰)	県条例指定 自然記念物
25	飛の木(カツラ)(富の木渡し)(調宮神社)	祭礼(信仰)	-
26	杉坂山(多賀大社ご祭神降臨の地)	信仰・自然環境	-



[図 4-4] 関連文化財群 (1)「いのちの神様・お多賀さん - 多賀信仰 -」

(2) 「重源上人ゆかりの寺 - 敏満寺と胡宮神社 -」

●敏満寺の歴史

平野部を望む青龍山西側山麓に広がる敏満寺は鎌倉時代には地域の基幹をなす存在であったと考えられる。現在も土塁や礎石などの遺構がその歴史を伝えている。浅井や織田の焼き討ちで焼失したが、中世には湖東地域の中心地であった。史跡敏満寺石仏谷墓跡は日本最大規模級の中世墳墓群である。

そして、重源上人が奉納した銅製五輪塔や東大寺の古代莊園との関係性など、1260年以上もの歴史深い地域である。東大寺正倉院に保管されている「近江国水沼村墾田地図」によると、古代に水沼池と言っていた大門池は、東大寺の三月堂（法華堂）で行われる千灯会の費用を出す水沼莊の料田を豊かにしてきたとある。多賀の人々の営みの歴史が伝わる関連文化財群である。

また、近江猿楽の中で最も古い歴史を持つ「みまじ座」の拠点であったことでも知られており、平成に入り、地元の有志により「近江猿楽多賀座」が結成され、多賀大社万灯祭などで、公演が行われている。地域の人々や地元企業、学生なども協力し、多賀町に伝わる歴史を継承している。

●胡宮神社と青龍山

敏満寺の主神体であった胡宮神社は古くは青龍山を神体山とあがめ、山頂近くには大きな岩が多数重なった、磐座と呼ばれる靈場が今に残っている。また、どんな干ばつの年でも水が枯れない古井戸や「竜宮」の小祠があり、水神信仰の地でもある。胡宮神社の祭神は多賀大社の祭神と同じ伊邪那岐命と伊邪那美命及びその子である事勝國勝長狹命で磐座は多賀大社の奥の院ともいわれており、関係が深い。

現在の建物は、寛永15年（1638）の多賀大社造営の時に再建されたもので、県指定の建造物である。社務所庭園は、青龍山の傾斜を利用し作庭されている。社務所の建築と庭園が一体となった国指定の名勝である。寛永の大造営のときに新造された神輿は葵の紋がつき、4月21日に執り行われる古例祭では、ご奉輩神輿舞楽揃っての渡御が行われる。



[写真 4-6] 敏満寺石仏谷墓跡④



[写真 4-7] 胡宮神社社務所庭園⑤



[写真 4-8] 胡宮神社の古例祭⑦

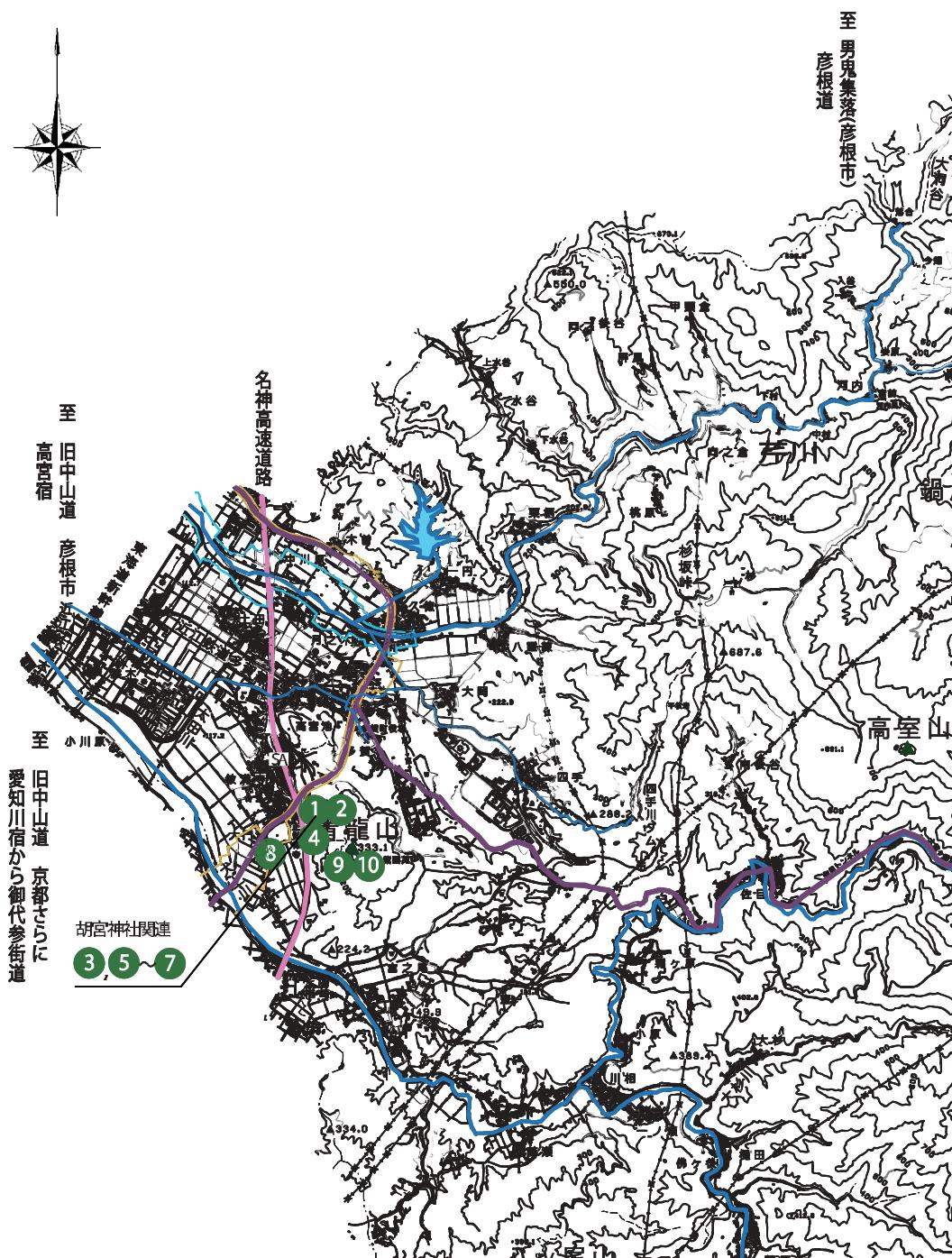
※写真タイトルの番号は次頁の表の番号を示す



[写真 4-9] 磐座⑩

[表 4-4] 関連文化財群の構成要素

		種別	文化財指定・条例選定等
1	胡宮神社本殿	建造物	県指定
2	古井戸(胡宮神社)	その他 土木構造物	-
3	銅製五輪塔(胡宮神社)(京都国立博物館出品)	工芸品	国指定
4	敏満寺石仏谷墓跡	史跡	国指定
5	胡宮神社社務所庭園	名勝	国指定
6	神輿(胡宮神社)	祭礼(信仰)	-
7	古例祭(胡宮神社)	祭礼(信仰)	-
8	大門池(水沼池)	自然環境	滋賀県選定 近江水の宝
9	青龍山(胡宮神社の神体山)	信仰・自然環境	風致地区/湖東県立自然公園
10	磐座(胡宮神社の奥宮)	信仰・自然環境	-



[図 4-5] 関連文化財群 (2)「重源上人ゆかりの寺 - 敏満寺と胡宮神社 -」